

“いのちのつながり”に貢献する医療、研究のために

DIVERSITY +
INCLUSION

ダイバーシティ & インクルージョン


 日本医科大学
NIPPON MEDICAL SCHOOL

 日本獣医生命科学大学
NIPPON VETERINARY AND LIFE SCIENCE UNIVERSITY

女性研究者の活躍を支え、次世代リーダーのすそ野を広げていくために

学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センターは2019年の設立以来、本補助事業の牽引型と女性リーダー育成型を通じ、女性や若手研究者が育児などのライフイベントと研究・仕事を両立し、活躍できるよう支援してきました。牽引型が終了し、女性リーダー育成型が中間年を迎えた今、センターとしてどのようにリーダーを育成していくのか。土佐眞美子センター長に伺いました。

学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター センター長 土佐 眞美子



自らのアンコンシャス・バイアスに気づく

センター長に就任して7年目になります。ダイバーシティについて何も分からないところから活動を始め、研修で「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」を学び、まさに自分のことだと気づきました。それ以来、「できない」ではなく「どうすればできるか」と考えるようになりました。ゼロからの試行錯誤の連続でしたが、一歩ずつ歩みを進めてきた実感があります。若い先生方にも「どうすれば実現できるか」を意識してほしいと伝えています。ダイバーシティ推進には困難もありましたが、理事長の深いご理解、両大学の学長のご尽力、センター運営委員の協力があり、ここまで進むことができました。また、4病院の院長をはじめ、多くの皆様のご理解とご支援にも深く感謝申し上げます。

女性リーダーが輝けるための支援と、次世代リーダーの育成を

2019～2024年度の牽引型では、育児・仕事の両立と研究支援を幅広く行い、今後も継続予定です。2022年度からは女性リーダー育成型が始まり、リーダーとして活躍する女性研究者と将来の候補者に向けた支援を行っています。

女性リーダー育成型はこのほど、中間評価を受けました。女性教授職比率は、両大学とも20%を超え中間目標を達成しましたが、准教授、講師なども含めた女性研究者在職比率は、まだまだ目標に足りません。

特に教授職に昇進した女性研究者の中には、急な抜擢や環境の変化に戸惑いを感じる方もいます。多くの方が控えめで誠実な姿勢を持ち、実力も兼ね備えているものの、リーダー職に求められる役割やネットワーク形成に不安を感じるケースがあると感じています。

医学部の入学者男女比はすでにほぼ半々であり、女性が十分に力を発揮できなければ、組織全体のバランスが崩れ、男性にとっても過度な負担が生じかねません。

一方で、女性リーダー育成の取り組みについては、まだ十分に理解が行き届いていない面もあると感じています。だからこそ、取り組みの意義を丁寧に共有し、すべての教職員にとって納得感と透明性のある制度設計を目指しながら、対話を重ねて進めていくことが重要だと考えています。

昇進はあくまで通過点であり、その後にはいかに力を発揮し、自信を持ってリーダーとしての役割を果たしていただけるかが問われると考えています。FD（ファカルティ・ディベロップメント）や懇親会の開催を通じて、同じ立場の教職員が対話し、共感や相互支援のきっかけが生まれています。こうしたつながりが、リーダーとしての自信と成長を支える土台になると感じています。

先輩方の志を次世代につなぐ橋渡し役として

前身である「女性医師・研究者支援室」を導いてこられた先輩方の尽力により築かれた歩みが、現在の活動の礎となっています。医学・生命科学系に特化した大学法人でここまでの取り組みが継続されている例は稀であり、こうした先達の努力を次世代へと確実につないでいく“橋渡し役”を担うことが、私の使命だと感じています。

少子化や人材流動化が進む今、「選ばれる職場」としての大学の価値が問われています。誰もが安心して働き、やりがいを持って成長できる環境づくりを通じて、大学の未来とともに支えていきたいと思っています。

女性リーダー育成型 中間地点を迎えて

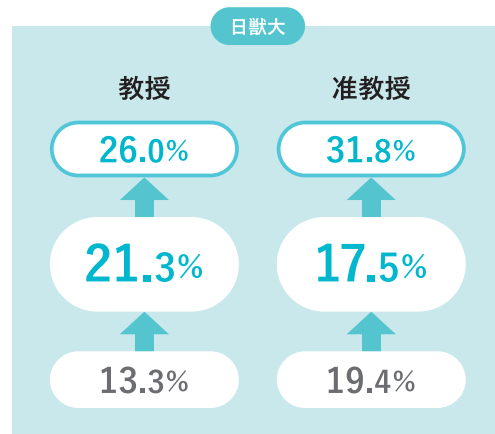
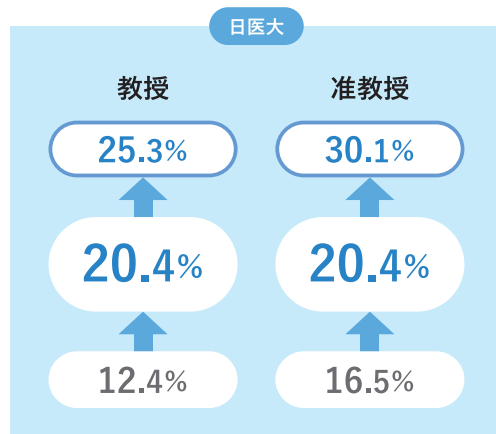
2022年度にスタートした「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」は2027年までの事業期間の中間地点を迎えました。本事業では「飛躍的な女性上位職登用」と「女性・若手研究者育成」を取り組みの両輪に、即効性と持続性のある女性・若手研究者の活躍推進を目指しています。取り組みは着実な成果を上げており、中間評価では「総合評価A」を達成しました。

上位職登用者一覧(五十音順)

女性リーダー育成型事業が開始した2022年度以降に教授・准教授の上位職に登用された42名の女性研究者をご紹介します。

- 教授(ポストアップ) 岩崎 雅江、國保 倫子、高野 晴子、遠田 悦子、三井 亜希子
- 教授(教育担当) 荒谷 紗絵、荻田 あづさ、川端 伊久乃、関口 敦子、田嶋 華子、谷内 七三子、戸山 友香、松本 多絵
- 病院教授 柳原 恵子 ●准教授 瀧澤 敬美、羽澄 恵 ●特任准教授 伊東 真理 ●寄附講座准教授 松本 典子
- 准教授(教育担当) 稲垣 恭子、上原 圭、尾崎 紗恵子、功刀 しのぶ、栗田 智子、柴田 あみ、堂本 裕加子、西川 純恵、福泉 彩、保利 陽子、松本 有紀子、眞野 あすか、山本 真記子、米本 崇子
- 教授 伊豆 弥生、奈良井 朝子、濱野 佐代子
- 特任教授 田中 亜紀 ●教授(ポストアップ) 江草 愛、山本 昌美
- 准教授 小田 民美、木邊 量子、戸澤 あきつ、彌吉 直子

女性リーダー育成型 女性上位職比率の目標値



取り組み紹介

2025年3月15日 リーダーシップ研修

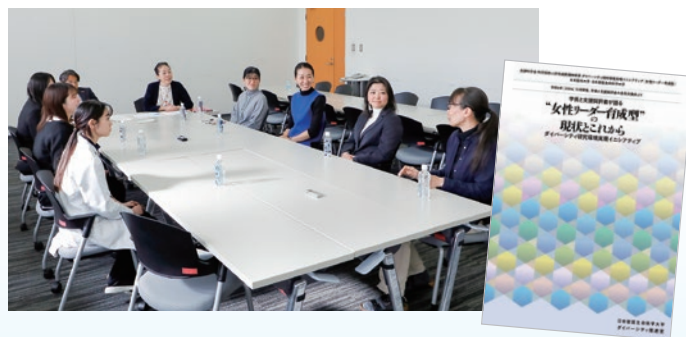
日医大



上位職に登用された女性研究者20名が、VUCA時代に求められる「21世紀型リーダーシップ」の基本概念を学びました。さらに、自身の意図を的確に伝え、相手を巻き込みながら場を活性化させ目標達成を促す手段としての「ファシリテーション」について理解を深めました。講義とワークを通じて、自らのリーダーシップスタイルを見つめ直す機会となり、今後の意思決定やチーム運営に活かしていくことが期待されます。

2024年12月25日 学長と支援採択者の意見交換会

日獣大



「学長と支援採択者が語る 女性リーダー育成型の現状とこれから」と題し、鈴木学長、小竹ダイバーシティ推進委員会委員長、支援採択者7名による意見交換会が開催されました。6年間の支援事業の前半3年間の取り組みや成果を振り返り、実際の制度の利用状況や課題、支援の効果について多様な立場から意見が交わされました。後半3年間の支援をより効果的で実りあるものにするため、今後の改善点等が共有される貴重な場となりました。

日々是好日

～女性研究者として生きる～



日本医科大学
総合医療・健康科学
准教授(教育担当)
米本 崇子(聞き手)

お話を伺った研究者



日本医科大学
呼吸器内科学
教授(教育担当)
谷内 七三子



日本医科大学
泌尿器科学
教授(教育担当)
戸山 友香

本誌編集委員の日本医科大学・米本崇子准教授と、女性研究者との対談シリーズが始まります。

お二人のご専門領域について教えてください。

谷内 大学院では分子病理を専攻し、肉芽腫性肺疾患における気管支肺胞洗浄に関する研究で学位を取りました。子育て中は、自宅に近い関連病院で臨床に従事しながら、COPDの啓発活動など社会的な取り組みにも関わりました。子どもの成長にあわせて大学に戻ってきてからは、喘息の後ろ向き研究を行いました。

戸山 泌尿器科では女性医師が少ないため、自然と女性の疾患を多く担当し、女性泌尿器が専門となりました。結婚・出産を経て復帰を重ね、現在は排尿障害、女性泌尿器疾患に加え前立腺癌診断の研究も行っています。

育児と仕事の両立で、辞めたいと思ったことはありましたか？

戸山 あります。教授に「ギリギリの状態、免除して頂いている当直を再開する見込みも立たないので非常勤になりたい」と伝えたら、「(泌尿器科では講師以上は当直が免除されるため)論文をもう1本執筆して講師になるのはどうか」と言われ、女性泌尿器疾患のデータをまとめたのが転機でした。

谷内 私もあります。でも、子育てで培われた「限られた時間で成果を出す力」は研究や教育に活かしていると思います。思い通りにいかない毎日の中で、柔軟性や諦めも身につきました。

ライフイベントを経て得られたスキルについて、どう感じますか？

谷内 私は完璧を目指すというよりは、仕事も育児も60点でよしと割り切って、ここまで続けてくることができました。振り返ると子育ての時間は本当に短く、若い世代には育児の時間も大切にしてほしいと伝えたいです。

戸山 私はまだまだ毎日精一杯で、何点取れているかを考える余裕もないくらい(笑)。とにかく家を出るまでにできることをこなし、そのあとは夫に託しています。夫が非常に大きな支えになっています。一人で抱えこまない、というスキルを身につけたようにも思います。

教授として、今後取り組んでいきたいことは？

谷内 教育やキャリア支援に注力したいです。教育担当FDなど、教員同士が悩みを共有し、連携を深めることで、大学全体の教育の質を高めるきっかけになると考えています。

戸山 私は、学生や若手医師の適性を見極め、その人に合った選択肢を一緒に見つける支援を大切にしたいです。小さな範囲での相談体制を作ることから始めて、それが将来のリーダーを育てる土壌につながるのでは、と考えています。

この続きはウェブサイトでも全文お読みいただけます



愛犬ラーラとの「第二章」 ～ペットがいるワークライフバランス～

日本獣医生命科学大学
富士アニマルファーム 牧場長

動物社会科学研究システム経営分野 教授 小澤 壮行

2025年4月13日、18年6月24日の天寿を全うして、我が家の愛犬、ジャックラッセルテリアのラーラ号は静かに旅立ちました。最期の瞬間、家族みんながラーラを囲み、その安らかな寝顔には、深い感謝の念すら感じられました。実はその1年前、ラーラは激しいてんかんの発作に襲われ、生死の境をさまよいました。奇跡的に一命を取り留めたものの、それ以降は日に日に衰えていく姿を見るのが辛く、むしろ大学に出向き、仕事に没頭する時間だけが心の救いでした。覚悟を決めていても、ラーラの生命が少しずつ消えていく現実に向き合うのは、想像以上に苦しいものでした。

ラーラは私にとって家族であると同時に、教育や研究の大切なパートナーでもありました。私の講義では度々エピソードの主役として登場し、学生の笑いを誘いました。また学園祭の「ペット自慢コンテスト」では見事に優勝し、ケネルクラブ主催のドッグショーには毎年出場し、多くの賞品をいただきました。学生たちもラーラを我が子のように可愛がり、ラーラはまさに学び舎におけるマスコットのような存在でした。

そんなラーラとの別れを経験している今、一人の動物関連研究者として、私は自分自身の「ペットロス」という深い悲しみを静かに見つめています。初めは後悔ばかりが心を支配しましたが、現在は「悲嘆」というプロセスをゆっくりと歩んでいます。やがてこの悲しみも、回復と適応の新たなステージへと私を導いてくれることでしょう。この悲しみの道を歩む中で、深く心を打たれた言葉があります。本学獣医学科・比較発達心理学教室の濱野佐代子教授が著書『ペットロスは乗り越えられますか?』の中で述べられている言葉です。「ペットを亡くした方は、ペットとの新たな関係を模索し、自分なりの物語を紡いでいきます。その物語は当事者が時間をかけて自問自答しながら構築していくものです。」そう、ラーラが旅立ったその日から、私と彼女の物語の「第二章」が始まったのです。ラーラが与えてくれたたくさんの幸せと学びを胸に、これから私は、彼女と新しい絆を再構築していきます。



日獣祭でケネルクラブ主催のペット自慢コンテストでは1位を受賞しました

活動報告

女性リーダー育成型

セミナー「生成AIを用いた研究サポート」

2025年1月14日、「生成AIを用いた研究サポート:ChatGPTの活用と課題」をテーマに、オンラインセミナーを開催しました。本セミナーでは、近畿大学医学部皮膚科学教室主任教授である大塚篤司先生に、ChatGPTとは何かという基本的な内容から、使用に際しての注意点、研究や教育の現場での活用方法まで、豊富な具体例を交えてわかりやすく講演いただきました。大塚先生ご自身が日々の業務や研究の中で実践された経験をもとに、生成AIの活用がもたらす利点や限界についても率直にお伝えいただき、生成AIの理解を深めることができました。参加者は日本医科大学および日本獣医生命科学大学の教職員や学生を中心に計92名に上り、アンケートでは「他の生成AIの活用例も知ることができて参考になった」「ChatGPTの能力を活かしきれていなかったと実感した」「使用者目線のコメントも有難かった」など、多くの前向きな声が寄せられました。今後も本事業では、生成AIに関する知識を深め、活用の幅を広げていただけるような企画を継続的に実施してまいります。



牽引型

仕事で活躍するためのパフォーマンスUPセミナー開催

2025年1月30日、アンファー株式会社の企画により「仕事で活躍するためのパフォーマンスUPセミナー」が開催されました。講師には国際ストレス脳科学研究所 (IS-BRAINLABO) 代表理事の山本恵子氏をお迎えし、脳の働きが体や心の健康に与える影響、脳科学的視点からの働きがいや生きがいの向上法、および脳タイプ別コミュニケーションのメリットについてご講演いただきました。当日は約40名が参加し、参加者からは「仕事と家事・育児・介護の両立に役立てたい、脳タイプ別の接し方の話が印象に残った」といった感想が寄せられました。本セミナーは、ワークライフバランスの視点を重視し、脳科学の知見をもとに日常生活や仕事に役立つ実践的なアプローチを学ぶ機会となりました。



女性リーダー育成型

動画視聴のご案内 ライフイベントとともに働く ～介護編～

介護は「いつ始まるのか」「費用はどのくらいかかるのか」「仕事との両立は可能か」など、不安や疑問が多いものです。そんな介護の基礎知識や活用できる制度を、約30分の動画でわかりやすく解説します。教職員の皆さまが、自分自身も介護される人も大切にしながら、仕事と介護を両立するためのヒントが詰まった内容です。視聴後には理解度をチェックできる約3分の確認テストも用意しています。まずは“知ること”から、介護と向き合ってみませんか？ぜひご覧ください。



ライフイベントとともに働くシリーズ

介護編



妊娠と出産、育児編



活動報告



…動画配信あり



動画配信はこちら

牽引型

2025年1月8日、16日、22日、31日
セミナー「知るから始まるはじめての一步
性の多様性 SOGIの基礎知識」(全4回)

2025年2月1日
三鷹ネットワーク大学 日獣大企画講座 単講座

女性リーダー育成型

【活動予定】
2026年1月30日
女性リーダー育成型シンポジウム

編集後記

新コーナー『日々是好日 ～女性研究者として生きる～』は、私と女性研究者との対談シリーズです。「日々是好日」とは、どんな日も意味があり、学びに満ちたかけがえのない一日であるという禅の教え。編集委員・米本が、若手女性リーダーの想いや葛藤、等身大の魅力を引き出していきます。身近なロールモデルとして、次世代へのヒントとなる言葉をお届けします。(米本)

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)

【代表機関】日本医科大学 【共同実施機関】日本獣医生命科学大学

【編集・発行】学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター 〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5 TEL 03-3822-2131

one-health.jp

詳しい記事や講座へのお申し込みなどは
One Healthのウェブサイト
をご覧ください

